

- 問1 佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表される弥生時代の文化や社会状況について述べた文として、背景や当時の国際関係を含めて説明したものとして正しいものを選択してください。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
1. 有柄細形銅剣などの青銅器が大陸から伝わり、女王卑弥呼が魏へ使者を送るなど大陸の王朝との交流を通じて自らの権威を高めた。

2. 稲作が普及して定住が進んだが、大陸との交流は途絶えており、日本独自の国風文化が形成された。

3. 百濟から仏教が伝来し、聖徳太子が大陸の進んだ制度を取り入れるために十七条の憲法を制定した。

4. 巨大な前方後円墳が各地に築かれ、ヤマト政権が近畿地方を中心に統一国家としての基盤を固めた。
- 問2 弥生時代に大陸から日本列島へ伝わった金属器の特色について、銅鐸の性質をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
1. 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった

2. 銅鐸に代表される青銅器は、古墳時代になってから初めて製作され、巨大な墓に副葬された

3. 銅鐸は文字を記録するための道具として開発され、当時の律令制度を庶民に伝えるために使われた

4. 青銅器は、鉄器よりも硬く鋭いため、主に開墾用の農具や実戦用の武器として普及した
- 問3 弥生時代の遺跡から発掘された人骨の中には、石の鏃（やじり）が刺さっていたり、鋭利な刃物によるものと思われる殺傷跡が残っていたりするものが多数見つかっています。このような人骨の発見から、当時の社会状況について推測されることとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
1. 古墳と呼ばれる巨大な墓を造るために、強制的な労働によって多くの犠牲者が出たこと

2. 狩猟や採集を中心とする生活の中で、獲物を奪い合うための小規模な小競り合いが増えたこと

3. 青銅器である銅鐸や銅鏡を、死者の権威を示すための副葬品として埋葬し始めたこと

4. 水田稲作の普及にともない、土地や水をめぐる集落間の争い（戦い）が激しくなったこと
- 問4 福岡県などで出土した、表面が滑らかで機能的な形をした壺型の土器について、その形状や性質が変化した背景として最も適切なものはどれか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
1. 狩猟や採集を中心とした移動生活に耐えられるよう、衝撃を吸収するためにあえて厚手に作る技術が途絶えたから。

2. 大陸から伝わった仏教の影響により、華美な装飾を避けて質素な道具を作ることが社会の決まりとなったから。

3. 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。

4. 青銅器や鉄器が普及したことで土器が使われなくなり、儀式用の飾りとしてのみ作られるようになったから。
- 問5 弥生時代における金属器の使用について、青銅器と鉄器の使い分けに関する説明として最も適切なものはどれか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
1. 青銅器は主に祭祀の儀式用に用いられ、鉄器は農具や武器として実用的に用いられた

2. 青銅器は主に調理や貯蔵の容器として用いられ、鉄器は祭礼の装飾品として用いられた

3. 青銅器は大陸との交易における貨幣として用いられ、鉄器は建築用の釘として用いられた

4. 青銅器は一部の特権階級の家財として用いられ、鉄器は庶民の狩猟道具として広く普及した
- 問6 弥生時代の社会状況を示す事例として、香川県にある紫雲山遺跡のように、瀬戸内海を一望できる高い山の上に作られた「高地性集落」があります。卑弥呼が邪馬台国を治めていた時期を含め、このような特殊な場所に集落が作られた理由として、当時の社会背景を説明したものを選りなさい。 (2021年 香川県公立入試 類似)
1. 大陸から伝来した仏教を修行するための山岳寺院を建てる必要があったため。

2. 白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅の侵攻に備えて防衛拠点としての城を築いたため。

3. 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。

4. 遣隋使や遣唐使として派遣される人々を、高い場所から見送る儀式を行うため。
- 問7 弥生時代に始まった、青銅器と鉄器の使い分けに関する背景について、正しい説明はどれですか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
1. 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった

2. 石器から鉄器への移行を嫌った指導者たちが、妥協案として青銅器を儀式に導入した

3. 青銅器は弥生時代の中頃に全て回収され、その原料はすべて鉄器の製造に再利用された

4. 青銅は鉄よりも耐久性に優れていたため、大規模な土木工事の道具としてのみ使われた
- 問8 弥生時代に製作された青銅器の一種で、兵庫県の五十六点や島根県の五十四点をはじめ、滋賀県や和歌山県といった近畿地方の府県で多くの出土が確認されている、豊作を祈るなどの祭礼に用いられた道具を何というか。 (2024年 京都府公立入試 類似)
1. 勾玉

2. 石包丁

3. 銅鐸

4. 銅矛
- 問9 古代の東アジアにおいて、倭（日本）などの周辺諸国の首長や国王が、中国の皇帝に使者を送り、貢物を捧げた外交形式を何と呼びますか。この形式において、使者は中国の皇帝からその地域の支配権を認められ、称号や金印を授かることで、自らの権威を高めようとしていました。 (2024年 宮崎県公立入試 類似)
1. 冊封

2. 民間貿易

3. 朝貢

4. 通商
- 問10 3世紀の中国の歴史書には、当時の倭（日本）の様子が詳しく記されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が亡くなった際、直径100余歩（約150メートル）もの大きな塚が造られ、100人余りの奴隷と一緒に埋められたといった、当時の社会の様子や埋葬の風習を伝えている資料の名称を選びなさい。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
1. 『漢書』地理志

2. 『隋書』倭国伝

3. 『後漢書』東夷伝

4. 『魏志』倭人伝
- 問11 長崎県杵岐市の「原の辻遺跡」は、大規模な環濠集落を特徴とし、中国の歴史書に登場する「一支国（いきこく）」の王都とされています。この一支国も含まれる当時の倭国の様子や、女王卑弥呼が中国へ使者を送った出来事について詳しく記されている書物はどれですか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
1. 『漢書』地理志

2. 『宋書』倭国伝

3. 『魏志』倭人伝

4. 『後漢書』東夷伝
- 問12 「魏志倭人伝」に記されている、3世紀頃の日本（倭）の社会や政治の様子に関する説明として、当時の状況を正しく述べているものを選びなさい。 (2025年 長野県公立入試 類似)
1. 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった

2. 律令制度が導入され、戸籍に基づいて全ての人々に口分田が割り当てられていた

3. 仏教が伝来した直後であり、各地で巨大な寺院の建設が始まっていた

4. 武士団が結成され、各地の荘園を管理するために地頭が派遣されていた

答え合わせ・解説

問1	答え 1 有柄細形銅剣などの青銅器が大陸から伝わり、女王卑弥呼が魏へ使者を送るなど大陸の王朝との交流を通じて自らの権威を高めた。	吉野ヶ里遺跡は、大規模な環濠集落や有柄細形銅剣などの出土品から、弥生時代の社会構造や大陸とのつながりを示す重要な遺跡です。この時代、稲作の普及により余剰生産物が生まれ、貧富の差や土地を巡る争いが発生しました。その中で誕生した邪馬台国の卑弥呼は、中国の魏と外交を行うことで、大陸の進んだ文化や宝物、そして皇帝からの公認という「権威」を獲得し、国内の小国をまとめようとしていました。古墳の造営や仏教の伝来は後の時代の出来事です。
問2	答え 1 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった	弥生時代には、青銅器と鉄器がほぼ同時に大陸から伝わりました。実用的な道具として、鋭利な刃物が必要な武器や工具には「鉄器」が主に使われた一方で、光沢があり希少な「青銅器」は、銅鐸や銅鏡、銅剣（儀礼用）のように、祭礼や集落の権威を示すための道具として使い分けられました。銅鐸は特に稲作の豊穰を願う集落の共同祭祀に深く関わっていました。
問3	答え 4 水田稲作の普及にともない、土地や水をめぐる集落間の争い（戦い）が激しくなったこと	弥生時代に始まった水田稲作は、安定した収穫を得るために良好な土地の確保や用水路の管理が不可欠でした。これにより、資源をめぐる集落同士の利害対立が生まれ、人骨に残された殺傷跡や頭部のない人骨は、武力を用いた激しい争い（戦い）が日常的に行われていたことを物語っています。縄文時代にはこうした殺傷跡のある人骨は稀であり、生産活動の変化が社会構造を大きく変えたことを示しています。
問4	答え 3 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した穀物を保存するための「壺」や、煮炊きのための「甕（かめ）」、盛り付けのための「高杯（たかづき）」など、用途に応じた器が作られました。そのため、縄文土器のような装飾性よりも、薄くて軽く、用途に適した機能的な形状へと進化したします。
問5	答え 1 青銅器は主に祭祀の儀式用に用いられ、鉄器は農具や武器として実用的に用いられた	弥生時代の大きな特徴は、青銅器と鉄器という性質の異なる二つの金属器が並行して使われていた点にあります。青銅器は脆（もろ）いため、主に祭りや儀式を司るための祭礼具として発展しました。一方、鉄器は硬くて鋭いため、木製農具を加工するための工具や、実際の武器、耕作のための農具として実利的な目的で活用されました。
問6	答え 3 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。	弥生時代は稲作による余剰生産物が生じたことで、富の蓄積や階級の差が生まれ、各地で土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。瀬戸内海沿岸の山頂付近にある紫雲山遺跡のような高地性集落は、敵の動きをいち早く察知し、集落を守るための軍事的な拠点としての役割を担っていました。中国の歴史書に記された「倭国大乱」も、こうした激しい社会状況を裏付けています。
問7	答え 1 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった	弥生時代の日本において、金属器は「実用の鉄」と「祭祀の青銅」という二面的な使い分けがなされていました。稲作の普及に伴って集団が大きくなると、人々をまとめ上げるための儀式や、その集団の頂点に立つ指導者の権威が必要となりました。そのため、美しく加工しやすい青銅器は、実用性よりも、見る人を圧倒するような象徴的な価値を求められるようになったのが大きな背景です。
問8	答え 3 銅鐸	弥生時代には、大陸から青銅器の技術が伝わり、日本では主に祭りの道具として独自に発展した。銅鐸は近畿地方を中心に、四国や中国地方からも多く発見されており、稲作の豊作を願う儀式などで使われたと考えられている。選択肢にある銅矛も青銅器だが、これらは九州地方を中心に多く出土する傾向がある。
問9	答え 3 朝貢	中国を中心とした国際秩序の中で、周辺諸国の君主が中国の皇帝に対して臣下の礼をとり、貢物を捧げる行為を指します。これにより、周辺諸国の君主は中国皇帝から国内の支配権を正当化する称号（官職や王号）を得ることができました。設問にある「称号や金印を授かること」は、この外交関係に伴う重要な政治的プロセスです。
問10	答え 4 「魏志」倭人伝	中国の三国時代における「魏」の歴史を記した『三国志』の一部である「魏志」倭人伝には、邪馬台国の女王卑弥呼が魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かったこと、そして彼女の死後に巨大な墳丘墓が造られたことなどが詳細に記述されています。この記述は、その後の日本における古墳文化の成立を考える上でも重要な手がかりとなっています。
問11	答え 3 『魏志』倭人伝	3世紀の日本の社会情勢や地理、卑弥呼の統治については、中国の三国時代の歴史書「三国志」の一部である『魏志』倭人伝に記載があります。原の辻遺跡のような環濠集落の存在は、当時の倭国が多く的小国に分かれ、交易を行いながらも対立や防衛を繰り返していた社会状況を裏付けています。
問12	答え 1 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった	『魏志倭人伝』の記述からは、当時の倭には「大人」や「下戸」と呼ばれる明確な身分階級が存在し、租税（税金）の徴収や市場での交易が行われていたことが分かります。これは、単なる集落の集まりではなく、ある程度組織化された国家としての仕組みが整い始めていたことを示しています。